

6. 投資型クラウドファンディングの活用事例

「ファンド型クラウドファンディングの活用事例」(仲介業者)

ミュージックセキュリティーズ株式会社 代表取締役 小松 真実 氏



1. はじめに

当社は第二種金融商品取引業者として、ファンド型クラウドファンディング事業を行っています。多くの金融機関や事業会社の方々に株主となっていただきながら、連携してこの事業を進めております。日本の中小企業の方々にとっては、銀行からの融資とベンチャーキャピタルからの出資が大きな資金供給チャネルとなっていますが、そのような融資や出資を受けられない方が大勢いらっしゃることを強く感じ、新しい金融システムが必要ではないかと思い、2000年にこの会社を立ち上げ、ビジネスを開始いたしました。

このようなの方々に対し、当社は、個人からの資本性の資金を供給していきたいと考えております。ここで求められている資金とは、元本返済の保証や経営者の個人保証がない資金、事業の成果に連動して分配していきけるような資金、株式を取得するような形ではなく、経営の自主性を保てるような資金、条件を満たせば金融機関の方々が融資の際に資本の一部と見なせるような資金です。

2. 取扱状況

当社が取り扱う各ファンドの投資期間の多くは、3～5年程度となっています。投資期間の長い場合では、例えば被災地の応援ファンドや森林ファンドで10年というものもあります。1社当たりの調達金額は、100万円程度から、多い場合では2億5,000万円程度の会社もございます。

当社全体の取扱状況としては、現在、調達金額の総額は80億円、利用企業は536社、ファンド数は807本となっております。

3. インパクト投資

当社としては、金銭的なリターンだけでなく社会的なリターンも求めていこうとしており、「インパクト投資」というものを大事にしています。まずは投資によるインプットがあって、アウトプットとして事業の売上げなどが上がった後、投資家の方には利益を分配させていただき、さらには震災からの復興や貧困の削減、環境の改善などをインパクトとして社会に生み出していくことを、個人投資家の方々と一緒に実現していこうと考えています。

重要なのは、何のための投資なのかということです。当社はSDGsを重要視しておりますが、SDGsに取り組む事業者様は全国にたくさんいらっしゃいます。また、投資家の方が当社のウェブサイト上でファンドを検索する際は、SDGsの各項目から検索していただける設定としております。

4. 他機関との連携

当社は現在、71の金融機関と提携しており、各金融機関の取引先の中で、当社がサービスを提供す

ることにより企業価値を高めるお手伝いができるような場合は、会社を御紹介いただいております。また、30程度の地方公共団体とも連携しており、連携先には被災地域の方々も含まれています。中小機構の場合は、全国の地域本部の方々とリレーションを築きながら、事業計画づくりも一緒に行っております。さらに、JICA（国際協力機構）や米州開発銀行からは、海外の資金ニーズを御紹介いただき、日本全国から投資家を集めて、「日本のお金が海外で活躍する」ということを実現させています。このような連携を通じて、月間10~20本のファンドが組成されています。

投資家の掘り起こしという点では、地域金融機関のホームページで、当社を御紹介いただいております。中には、当社が電子募集取扱業務の登録を受けたときに、当社のファンドと一緒に販売していただいた地域金融機関もございました。

5. 被災地応援ファンド

日本では、今後も震災が多く発生する可能性があるかもしれませんが、このようなときには、個人からの思いのある資金というものが御活用いただけると感じています。

東日本大震災では、当社は38社・40本のファンドを組成し、3万人の方から11億円程度の資金を集めさせていただきました。これらのファンドは、半分寄付・半分出資という形になっています。東日本大震災から7年が経ち、ようやく償還されるファンドが出てきました。震災からの復興を実現された気仙沼の会社では、当時、1,000万円を400人から3週間程度で集め、新しい工場をつくって事業を拡大させ、現在では非常に大きく成長されています。出資者には1口当たり5,000円の出資金に対して8,560円の分配が行われ、償還率は171%となりました。第二種金融商品取引業のファンドとして、社会的なインパクト・貢献と金銭的なリターンを両立できる仕組みになっているのではないかと思います。

6. 投資家と事業者の交流

当社としては、現地と一緒にいくツアーを開催させていただくなど、投資家の方々にとって「顔の見える投資」となることを非常に大事にしております。被災地である東北には毎年行っています。また、当社は日本酒のファンドが多いため、皆で酒蔵に行ったり、お酒を買いに行ったりしています。飲食店のファンドも多く、飲食店と酒蔵でコラボレーションしていただき、一緒に投資家の向けのイベントを行うこともあります。

現在も約50本のファンドが募集中となっており、いろいろな形態の事業者様が資金を調達していただいておりますので、ぜひ一度、当社のウェブサイトを見ていただければ幸いです。